

和歌山県橋本市のオープンデータ化の取組について

和歌山県 橋本市
企画部 企画経営室

平成27年6月22日

1 橋本市について

世界で一番便利な田舎町

by [Joshin CM ソングを歌っている] J-POPグループのウィンズ平阪氏の歌詞

関西圏

▽平成27年に開創1200年を迎えた世界遺産・高野山の麓

出産・子育てしやすい街ランキング 2位
 安全な街ランキング 6位
 高齢者が住みやすい街ランキング 6位
 裕福な街ランキング 14位

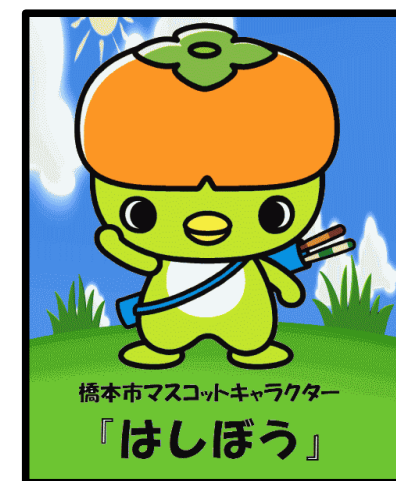
▽生産量日本一
 へら竿生産の全国シェア90%以上を誇る
 パイル織物
 ▽伊勢街道と高野街道が交差する、交通の要衝

出展：週刊東洋経済2013年8月13日

交通の要衝 紀伊名所図会 東家の往来 より



紀ノ川に住む 柿の妖精



2 オープンデータ化で解決を目指すテーマについて

市民サービスのための
財源の減少

人口の減少(生産年齢
人口割合の減少)

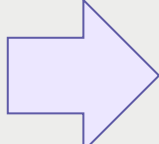
行政だけではすべての
ことへの対応ができ
なくなっている

市民が参画する
街への転換
が必要

テーマ

きめ細かいニーズ対応で
きるための市民協働

若者のアイデアと高齢者
の知恵を活かすための
具体的な仕組み



オープンデータをどれだけ
活用できるか

3-1 これまでのオープンデータ化の取組

▽橋本市データを利用した新たなサービスの提供

橋本市がオープンデータ推進に取り組むことによって、新たなサービスの提供が実現できている

橋本市版「WHERE DOES MY MONEY GO？」が平成26年12月13日に立ち上げ

橋本市版「5374.jp」が平成27年4月15日に立ち上げ



▽「わかやま地域情報化フォーラム」の開催

橋本がオープンデータに取り組むことへの理解を内外に深めるため、オープンデータをどのように活用すれば、地域力を高めることができるのかをテーマに、平成27年1月7日に橋本市主催で開催した

フォーラム参加者 197名 うち行政関係(橋本市以外)25団体37名の参加があった

フォーラム開催中の参加者の意見が直接確認できる「コメント送信システム」とアンケートにより、「オープンデータ化を希望する情報とオープンデータをどのように利用したいか、ニーズを収集したため、今後の橋本市の取組み」に活かせるよう進める(アンケート回答者 116名)

- ・公開されるとよいデータ・・・交通システム、子育て、公園、趣味(講習会等)、防犯、防災、地域のお店情報等
- ・どのように利用したいか・・・地元の課題解決、自治体を越えた利用、ビジネスでの利用(モデル検討)



3-2 これまでのオープンデータ化の取組

▽「橋本まち歩きオープンデータソン」の開催

オープンデータは行政からもらうものではなく、自分たちでつくることができるということを広く認識してもらうことを目的として、平成27年2月28日に実施した。

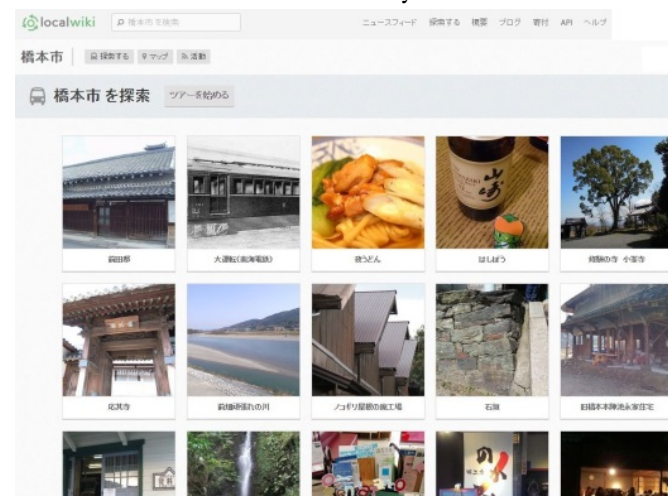
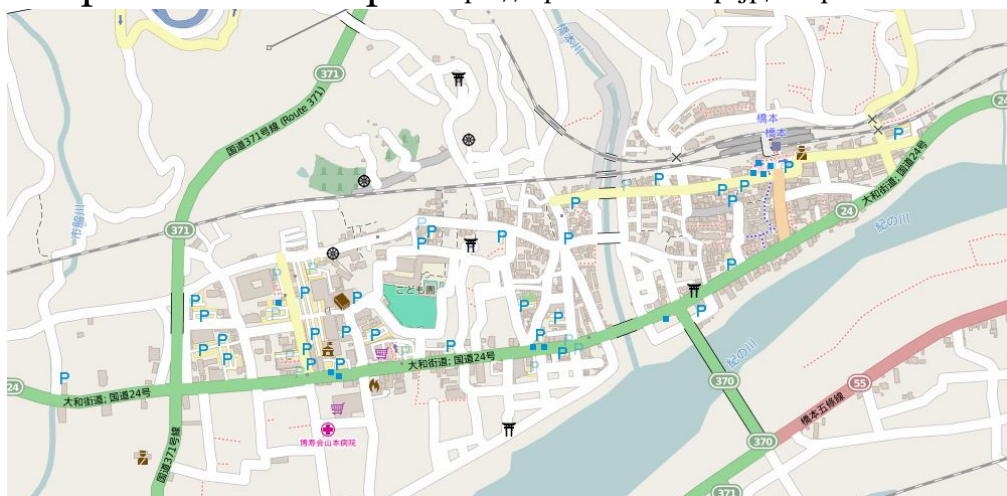
参加者 43名で、Wikipediaチーム(14名)、Local-Wikiチーム(8名)、

OpenStreetMap

チーム(21名)に分かれ、Wikipedia記事4本、Local-Wiki橋本市リージョンの立上げ、OpenStreetMapでのまち歩き地域の情報拡充などの成果があった。

(具体的な成果の内容について、下記URLの情報を参照いただければ、幸いです。)

- Wikipedia (ex: 応基寺) <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%BF%9C%E5%85%B6%E5%AF%BA>
- Local-Wiki <https://ja.localwiki.org/hsm/>
- OpenStreetMap <https://openstreetmap.jp/map#zoom=18&lat=34.31727&lon=135.61551&layers=B00>



3-3 これまでのオープンデータ化の取組

▽「橋本市オープンデータカタログ」の開設

新たなシステム導入はせず、既存のCMSの機能・テンプレートの範囲内でデータ、アプリ、注意事項など見つけやすく、市職員による継続が行いやすくすることにより、経済性と利便性の両立に取り組む

- ・機械可読可能かつオープンに利用できるCSV形式以上での掲示
- ・観光情報、文化財情報、観光動態調査、ごみ分類、人口統計を公開
- ・ライセンスは、CC-BYを適用
- ・全庁的な指針としての「橋本市オープンデータ推進に関する指針」と、カタログページ利用のための「オープンデータ利用規約」の整備



4 地域拠点としてのオープンデータ化の取組

▽郷土の偉人・大畑才蔵顕彰を目的とした、マッピングパーティを実施し、オープンデータをツールとして地域力の向上・郷土の再発見を図る。

※大畑才蔵とは

紀州藩において、元禄年間を中心に、紀の川から引水した大規模かんがい用水・疏水の構築など、水利事業で大きな貢献をした。



大畑才蔵が設けた小田井堰



大畑才蔵生誕の碑

▽橋本市オープンデータカタログの充実

平成27年4月30日から5月20日にかけて、61項目のデータを対象とした庁内調査を実施。

- ・調査結果：AED設置場所、コミュニティバス情報、健診情報、通学区域情報など、18の情報について保有かつ公開可能であったので、これら情報の今年度中のオープンデータ化を図る。

5 地域拠点として(仮称)橋本市長特別賞を設置

市の抱える地域課題を解決するために有意義なアイデア・データ・アプリケーションに対して、(仮称)橋本市長特別賞を設置し、開発に取り組むエンジニアの方々の支援と協働を促進することで、オープンデータ化によるメリットの見える化を図る。

(仮称) 橋本市長特別賞の検討内容

- ①「定住人口」「交流人口」の増加に資するような、対外発信・シティセールスに特長がある、今後の展開に期待ができる作品を選定したいと考えています。
 - ②賞金について、アプリケーション、データ、アイデアについて、各数万円相当商品券と副賞(橋本市名産品等)を軸に検討しています。
- ※上記内容は検討中であり、未確定のものであることにご留意ください